

平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



平成24年8月9日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 浅倉 三男  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理グループ長 (氏名) 安戸 久仁彦 (TEL) (03)3249-2381  
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	7,771	△5.2	61	△74.8	73	△81.1	20	△93.1
24年3月期第1四半期	8,196	15.2	245	△37.4	391	△29.1	299	△19.0

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 △8百万円(－%) 24年3月期第1四半期224百万円(－%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	0.77	—
24年3月期第1四半期	11.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	25,919	5,645	21.8
24年3月期	26,576	5,785	21.8

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 5,645百万円 24年3月期 5,785百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	—	—	5.00	5.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	14,800	△4.2	400	△15.5	300	△55.7	200	—	7.45
通期	28,500	△6.2	750	△24.1	400	△62.7	250	△46.3	9.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 - 社 (社名) - 、 除外 - 社 (社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区分することが困難な場合」に該当しております。詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項」（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年3月期1Q	35,000,000株	24年3月期	35,000,000株
25年3月期1Q	8,139,601株	24年3月期	8,139,601株
25年3月期1Q	26,860,399株	24年3月期1Q	26,860,399株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報〔当期の経営成績〕

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興へ向けた政策が実施される中、個人消費は底堅く推移し景気は緩やかに持ち直しつつありますが、欧州政府債務危機を背景とした金融資本市場の変動や海外景気の下振れ等に加え、電力供給の制約、デフレの影響等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当第1四半期連結累計期間の海外原糖市況は、期初24.58セント（ニューヨーク市場粗糖先物相場（期近限月の引け値、1ポンド当たり。）以下同じ。）で始まりましたが、北半球及び主要生産国ブラジル、豪州における増産予想や、欧州政府債務危機による不透明な情勢を嫌気した投機資金の流出等から、6月上旬には18.90セントの安値をつけました。その後は、南半球の天候不順により生産、輸出の遅れが不安視され始めるとともに、欧州政府債務問題に対しても一定の好転が見られたことから、商品市場にリスクテイクの動きが活発化し、結局21.81セントで当第1四半期連結累計期間を終了しました。

当第1四半期連結累計期間の国内市中価格は、東京市場現物相場（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり。）は期初185～186円で始まり、同一水準のまま当第1四半期連結累計期間を終了しました。

かかる状況の中、当社グループは高品質で安心、安全な製品の安定供給を第一義とし、顧客満足度を一層高めるとともに、価格競争力の一層の向上に努めて参りましたが、今夏の電力不足懸念に起因する生産コストの増加や、販管費における臨時的な費用計上等もあったことから、利益面では前年同四半期を大幅に下回りました。

その結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

当第1四半期累計期間	金額 (百万円)	前年同四半期比
売上高	7,771	5.2%減
営業利益	61	74.8%減
経常利益	73	81.1%減
四半期純利益	20	93.1%減

また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

当第1四半期累計期間	売上高 (百万円)	前年同四半期比	セグメント利益 (百万円)	前年同四半期比
砂糖事業	7,174	5.5%減	288	34.2%減
バイオ事業	406	6.2%増	64	54.8%増
不動産賃貸事業	201	7.7%減	12	59.1%減
調整	△10	—	△303	—
連結損益計算書計上額	7,771	5.2%減	61	74.8%減

(注) セグメント利益の調整額△303百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△303百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

## ①砂糖事業

販売数量につきましては、4～5月は計画並みで推移しましたが、6月に入り、海外粗糖相場の下落による先安感から販売が低調に推移し、結局前年同四半期を下回りました。売上金額につきましては、販売数量の減少及び販売価格水準の低下により前年同四半期を下回りました。

## ②バイオ事業

## ・オリゴ糖

家庭用「オリゴのおかげ」は、幅広い利用者層に向け、商品価値の啓蒙と、正しい使用方法などの理解・普及に努めるとともに、量販店を中心に店頭販促施策に取り組み一定の成果を上げました。

業務用は、新規ユーザーの開拓に向け営業活動に努めました。

## ・サイクロデキストリン（CDと略称。）

飲料、健康食品などの食品分野の拡販に努めた結果、飲料向けに新規採用があり、冷凍食品向けや練り製品向けで販売数量が増加しました。また、非食品分野の拡販に努め、同分野においても販売数量が増加しました。

以上から、バイオ事業全体では、オリゴ糖部門、CD部門共に堅調に推移し、両部門共に販売数量が増加し、売上金額は前年同四半期を上回りました。

## ③不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました。

研究開発につきましては、肝機能改善などの機能を有するグルクロン酸の新規工業的生産技術のノウハウを継続して第三者への貸与等に努めました。また、抗がん剤「糖修飾パクリタキセル」をリポソームに包み込み副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」に関しましては、引き続き実用化を目指して共同研究開発を精力的に進めました。

また、農林水産省からの研究委託事業として取り組んでいる、米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材の開発につきましては、計画通りに研究を推進しました。

バイオ製品（オリゴ糖、CDなど。）につきましては、一層の製造コストの低減と品質の向上に取り組むとともに、新たな機能を探索致します。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ656百万円減少し、25,919百万円となりました。これは主に投資有価証券の時価下落による投資有価証券の減少によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ516百万円減少し20,274百万円となりました。これは主に、未払法人税の減少によるものであります。

また、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ140百万円減少し、5,645百万円となりました。これは主に、上場有価証券の時価評価額及び四半期純利益が減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間の業績は概ね当初予定通りに推移しており、当第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましても、現時点では、平成24年5月10日に公表いたしました業績予想と変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更に伴う、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304	883
受取手形及び売掛金	1,937	2,101
商品及び製品	915	1,184
仕掛品	312	305
原材料及び貯蔵品	1,310	962
繰延税金資産	90	76
未収還付法人税等	21	23
その他	1,110	1,095
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	7,002	6,633
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,512	9,537
減価償却累計額	△4,815	△4,883
建物及び構築物(純額)	4,697	4,653
機械装置及び運搬具	11,049	11,068
減価償却累計額	△9,099	△9,211
機械装置及び運搬具(純額)	1,950	1,857
工具、器具及び備品	391	393
減価償却累計額	△333	△343
工具、器具及び備品(純額)	58	50
土地	5,195	5,195
建設仮勘定	23	21
有形固定資産合計	11,924	11,778
無形固定資産	96	89
投資その他の資産		
投資有価証券	4,814	4,691
長期貸付金	1,276	1,282
繰延税金資産	1,328	1,339
その他	159	130
貸倒引当金	△24	△24
投資その他の資産合計	7,554	7,419
固定資産合計	19,574	19,286
資産合計	26,576	25,919
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,098	897
短期借入金	9,591	10,462
未払法人税等	423	21
未払消費税等	76	29
賞与引当金	85	41
その他	1,162	1,231
流動負債合計	12,437	12,684

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
固定負債		
長期借入金	6,642	5,857
退職給付引当金	1,214	1,194
役員退職慰労引当金	252	—
その他	244	538
固定負債合計	8,353	7,590
負債合計	20,791	20,274
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,856	7,745
自己株式	△3,116	△3,116
株主資本合計	6,756	6,645
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△969	△992
繰延ヘッジ損益	△1	△7
その他の包括利益累計額合計	△971	△1,000
純資産合計	5,785	5,645
負債純資産合計	26,576	25,919



## (2) 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	8,196	7,771
売上原価	7,026	6,767
売上総利益	1,169	1,004
販売費及び一般管理費	923	942
営業利益	245	61
営業外収益		
受取利息	11	11
受取配当金	126	53
持分法による投資利益	55	—
デリバティブ利益	—	20
雑収入	11	7
営業外収益合計	204	92
営業外費用		
支払利息	51	36
持分法による投資損失	—	27
支払手数料	1	16
デリバティブ損失	1	—
雑損失	4	0
営業外費用合計	59	80
経常利益	391	73
特別利益		
投資有価証券売却益	55	9
特別利益合計	55	9
特別損失		
投資有価証券売却損	—	3
投資有価証券評価損	—	15
その他	—	3
特別損失合計	—	23
税金等調整前当期純利益	447	59
法人税、住民税及び事業税	160	24
法人税等調整額	△11	14
法人税等合計	148	39
少数株主損益調整前当期純利益	299	20
当期純利益	299	20

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	299	20
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△65	△16
繰延ヘッジ損益	△33	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	23	△6
その他の包括利益合計	△75	△28
包括利益	224	△8
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	224	△8
少数株主に係る包括利益	—	—

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,594	383	218	8,196	—	8,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	7,594	383	218	8,196	—	8,196
セグメント利益	439	41	29	510	△264	245

(注) 1. セグメント利益の調整額△264百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△264百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,173	396	201	7,771	—	7,771
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	10	—	10	△10	—
計	7,174	406	201	7,782	△10	7,771
セグメント利益	288	64	12	365	△303	61

(注) 1. セグメント利益の調整額△303百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△303百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更による影響は軽微であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。